

## 令和6年度 高森町環境基本計画推進委員会 会議記録

令和6年8月29日(木) 午前10時00分  
高森町役場3階 大会議室

出席：木下委員、久保田委員、小川委員、関島委員、宮下委員、大原委員、城子委員、松長委員  
町出席：教育委員会事務局長清水、産業課商工林務係長小平、環境水道課長林、環境水道課課長補佐兼環境係長岩田、環境係榊原  
欠席：松下委員、矢澤委員、中塚委員、萱津委員

1. 開会（環境水道課長）
2. あいさつ（木下委員長）
3. 委員・事務局紹介（自己紹介）  
委員会について（環境係長）
4. 協議事項（進行：委員長）  
(1) 第3次環境基本計画について

①概要

資料「第3次高森町環境基本計画【概要版】」について説明

②町の取り組み説明

資料「高森町におけるカーボンニュートラルの現状と取り組み」について説明

小川委員) カーボンニュートラルとゼロカーボンの違いと、2050年に目指していることは何か。

事務局) カーボンニュートラルとゼロカーボンは、細かく見ると異なるが、ほぼ同意義。2050年に目指すことは、町から排出される二酸化炭素を減らし、森林吸収量を保つことによって、差引で実質的に町から出る二酸化炭素排出量をゼロにすること。中間の目標として、2030年には半分になることを目指す。

小川委員) 資料1ページにある、2013年と2019年における二酸化炭素発生量の比較で、減少している要因は。廃棄物はなぜ4倍に増えているのか。

事務局) 減少している要因は、人口減少と機器等の効率化(省エネ化)によると考えられる。廃棄物は、燃やすごみの処理場が稲葉クリーンセンターに変わり、処分方法が異なったことによる。

城子委員) 環境基本計画資料の裏面、カラーの数字が書いてあるものは何か。

事務局) SDGsのロゴになる。

関島委員) 役場の電灯はLEDにしたのか。

事務局) 大部分をLEDにしている。

### ③令和5年度の取り組みの振り返りと評価

小川委員) 評価するには、定量的に判断するための数値が必要ではないか。

事務局) 町の計画(まちづくりプラン)と連動しているのですが、その数値がひとつの目安となっている。事前に資料として送付していなかったため、改めて送る。

委員長) 町の計画とは、高森町振興総合計画(まちづくりプラン)である。可能な範囲で委員に示してほしい。

委員長) 令和5年度の自己評価について、令和4年度と比較してみると、相対的に上向いているのがわかる。担当課の評価であるため不透明だが、下向いている項目は令和4年度、令和5年度共にD判定のままである。評価では判定の理由に触れていないなど記述が弱い気がする。

事務局) 現状では主観による評価となっていて、そこまでの振り返りはできていない。まずは環境に関する意識を高めることを目指している。

大原委員) 生物関係で、現状では外来生物がかなり入ってきている。逆に保全しなければならない生物もある。このまま手を加えないでいると外来生物にやられてしまう。全体的ではなく、町として保全すべき生物を洗い出すための調査や保全対策を具体化してはどうか。近隣市町村と比べると、みんなで生物調査をする場所がない。松川町では、清流苑付近や生田などがある。高森町にもカブトムシの森や不動滝など手を入れて自然を楽しめる場所はあるが、楽しんでいる姿が見えてこない。自然と接するような場所を町で考えていってくると良い。松源寺、松岡城址へ行くと、下市田河原の開発が進んでいることがよくわかる。開発する際にも自然に親しむことのできる緑地帯を設けてはどうか。

事務局) 特定外来生物の対策は広報している。これまで町民を募集して、駆除活動をしてきたが、今は自主的にそれぞれの地域で取り組むことをお願いしている。環境係でも駆除活動をしているが、回数を重ねないと繁殖してしまうので大変である。山吹の河原にMIZBEステーションという、水と親しめる施設を計画している。

産業課) 信州たかもり温泉では、現在、改修に向けた検討をしている。自然豊かな場所であるため、活用できる提案等があれば、実現できるかもしれない。

委員長) 意見をいただいて活かしていくべき。特定外来生物は成長が早い。対応が大変。

松長委員) 農業の法人化を進めていくべき。

産業課) 地域計画の策定に向けて地域の方と対話を進めている。今後は区単位で話し合いを進めていく。具体的な話はこれからとなる。

小川委員) 勤めている農業法人の職員は14人くらいいるが、人手が足りない。職員を募集しても集まらない。農機具は価格が高いため、大規模化するなら法人でないといけない。

事務局) まちづくりプランにおける農業分野の評価では、遊休農地の面積が減少した。理由として、若干ではあるが、専業農家が大規模化したことが要因として考えられる。

久保田委員) JAの立場として、少子高齢化で農業は大変。兼業農家の支援もしている。遊休農地を増やさないように取り組んでいる。

関島委員) 最近、全国的に米が無くなって困っている。水稻直播という、苗ではなく種から植える農法が出てきた。無農薬で田んぼをするなら遊休農地が適している。ソーラーシェアリングで耕作する人も増えてきている。住宅に太陽光を付けられない方は、屋根貸しで出資できるようにしてはどうか。

以前は水筒の活用が進んでいたが、最近はペットボトルの利用が増えている。ペットボ

トルの配布をやめて水筒を持参して、意識改革を進めてはどうか。

コンポスターで虫が湧かない方法はいくつもあるので、講習会をしてはどうか。生ごみはたくさん水を含んでいるため、燃やさないようにした方が良い。

委員長) 農業関係以外について、事務局から回答してください。

事務局) 太陽光は今年度から、補助制度を拡充している。マイボトルの推進や、ペットボトルの水平リサイクルについて、広報をしている。生ごみは燃やすごみに占める割合が高いので、減量化に努めていく。

関島委員) 以前は、婦人ふるさとなど意識を高める機会がたくさんあったが、役員をするのが嫌でなくなってしまった。自然観察会などができなくなってしまったので、勉強会を復活してほしい。

委員長) 時代が変わってきている。町がつぶしているわけではないことを理解してほしい。

自発的な取り組みは、町が全面的にバックアップする。

宮下委員) 環境教育として、小学校が地域や自然を大切にする学習をしていきたい。

大原委員) 子どもが地域へ出ていく活動が少なくなっている。遠足(校外学習)も減っている。機会を増やしてほしい。資源ごみの回収など積極的に、子どもたちに参加してほしい。神社の清掃に子どもも参加するなど、そういう視点で考えてほしい。

委員長) 中学生のボランティアが増えている。不動滝でのイベントもあった。外へ出る機会が減っているとのことだが、これも時代が変わってきてしまっており、運動会ですら半日、学年別という時代が来てしまっている。

## 5. その他

## 6. 閉会